

キッズみんなの日記

4月号

はキャプテンがいくとこ
からきんちょうしたよ。
でも、うまくいったよ。

「ご入学、ご進級おめでとうございま
す。いよいよ、学校でも新学年のスタ
ートです。この一ヶ月間、みなさんは、
梨ゼミで新たな学年の学習を積み重ね
てきましたね。これは、大きなアドバ
ンテージです。自信を持って進学、進
級してください。そして、そのアドバ
ンテージを更に積み重ねていく努力を
休むことなく続けていきましょう！」

新一年生のみなさんは、ひらがなの
学習が終わり、主語述語の関係をしっ
かりマスターできた人から、日記の課
題を実施します。担任の先生のアドバ
イスに従って、楽しく始めましょう。
その他の学年は、毎週一回、
最低一日分を必ず提出しまし
よう。また、添削箇所やコメ
ントをしっかりと読み、次回の
日記を書くときの参考にして
ください。

優秀作品紹介

優秀作品では、キッズ生達のほのぼ
のとした日常を個性豊かに書き上げて
います。是非、みなさんも参考にし
てみてください。

『やぎゅうのしあぐ』

きょう、ぼくは、い学年のはじめてのしあ
ぐだよ。かんどくが、

「三ばんショート※・S。」※作者の名前
ていったよ。それで、ぼくは、

「三ばんー」

て大きなこえでいったよ。ショートはぶつ



S君が、一生懸命お母さんに報告し
ているような可愛らしい文末表現でま
ましたね。思わず、「うん、うん。」と笑顔で
頷きながら読み進めてしまいます。語りか
けるような口調で読み手をぐっと近くに引
き寄せる素敵な日記でした。

えいっ

「えいっ。」

「やー。」

かけ声あげてバトミントンをしました。相
手は、近じよの友だちです。ぼくが、さい
しよです。

「パーン。」

ど、音が鳴って、友だちのほうに、

「ヒュー。」

友だちがうってこっちに

「ビュー。」

そして、うとうとしたら、

「ヒュー。」

からぶりをしてしまいました。

つぎに、キャッチボールをしました。ぼく

が、

「えい。」

そして、何回かパスがつづきました。



「ポトツ。」

友達がボールを落としてしまいました。
おしかったです。

友だちとまたバトミントンや、キャッチボ
ールをしたいな、と思いました。もっとパス
がつづくようになりたいです。

『新小三・HT君』

「えいっ。」「ヒュー。」などの擬声語や擬態
語を使うことで、バトミントンをする二人と
シャトルの躍動感ある動きを生き生きと表
現していますね。かけ声をあげながら、友達
と楽しそうに遊ぶ君の姿が目には浮かぶよ
うです。スポーツを題材に選ぶときにはぜひ
参考にしたいたテクニクですね。

『家族で宇都宮へ』

三月五日、家族で宇都宮へ行きました。
うちの家族はみんな餃子が大好きで、前
から宇都宮へ行って餃子を食べ、食べてみたい
と思っていました。

何けんも回るのは大変なので、「来らっせ」
という餃子屋さんがたくさんある所へ行
きました。

焼き餃子、水餃子、羽餃子、揚げ餃子
を頼みました。あまり食べられないと思い、
ご飯をたのまなかったけど、餃子のあまり
のおいしさに、あとからご飯をたのみまし
た。

餃子を食べたあとは、ロッククライミング
をやって、温泉にも入りました。おいしく
て、楽しいお出かけでした。

（新小六・MSさん）



一段落目で、「家族全員餃子好き」「餃
子を食べに宇都宮へ」というおおまかな内容
をとともわかりやすくまとめていますね。段
落構成がしっかりしていて感心します。餃子
の美味しさも読み手にわかりやすく伝えて
います。Sちゃん家族の温かな雰囲気がよく
伝わってくる素敵な日記でした。

『初めての塾』

私は、すごく楽しみにしていた梨香台ゼ
ミナールに通い始めました。

最初は、ドキドキしました。先
生は、どんな人だろう。授業やテ
ストはむずかしいかな。

塾にいったら、知らない人ばかりでした。
友達が誰一人いなく、私はさみしかったで
す。

でも、だんだん慣れていきました。私の
前の席の子と友達になれたし、授業が始
まってからは、わかりやすい！と思いまし
た。

これからは、もっともっと勉強がむずかし
くなると思うし、あと一年で中学生にな
るから大変だと思えます。

でも、そんなことにも負けずに、少しず
つみんなに慣れていきたいと思います。勉
強がんばるぞー！（新小六・OAさん）



この日記を読み、初めて梨ゼミに来た
日のことを思い出す塾生も多いのではないで
しょうか。「緊張」→「安心」と気持ちの移り
変わりを見事に表現しています。最後の段
落はとても前向きな「目標」でまとめていると
ころも良いですね。頑張ろうね、Aちゃん。
講師一同全力でサポートします！



『初めての梨ゼミ』

「きんちようする。」
私と友達で話していた。六年生になると勉強がむずかしくてついていけなくなる、と言う理由で入ることになった梨ゼミ。仲良しの友達にさそわれて二人でいっしょに入った。



「何を持って行けばいいの？」
「どんなバッグ？」
と何度も質問していた。私も友達もとても心配でしかたがなかったからだ。

そして、ついに四時五十分。みんな席についた。よく見ると、知っている人が五、六人いる。二人の友達とははなれてしまったので、とても残念だった。

四時五十五分。始まり。これから六年生の勉強に入っていくので説明や宿題について話してもらい、わからなかったこともわかるようになりスッキリした。

いつの間にか六時十五分。思っていたよりも特別な事はなかった。これから、算数や国語に、もっと自信が持てるようになりた



い。(新小六・KNさん)
セリフで始まる印象的な日記ですね。短い時間の中での気持ちの変化を時刻で区切って表現しているところが、とても個性的で新鮮です。初日で、Nちゃんの不安やモヤモヤがスッキリして良かった！今の気持ちを忘れずに、一緒に頑張りましょうね。

東日本大震災3.11

被災地の皆様には心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心より願っています。

おります。

地震発生当日は、だれもが忘れられない一日となりました。多くのキッズ生がこの、大地震を題材に選び、その時の様子や不安な気持ちを日記に綴ってくれました。家族の大切さを改めて感じたというキッズ生も多かったようです。ニュースに関心を持ち、人の痛みを想像し、受け止め、多くのことを感じたり、考えたりの欲しいと願っています。



『大地震』

グラツと来て、その数秒後にはみんなが机の下にもぐり込んだ。学校で、その大地震のあったときでした。蛍光灯がグラングラン揺れて、後ろの方でカシャーンと何かの壊れる音がしました。まどガラスもカタカタなっていました。少し冷や汗が出ました。

一度、地震がおさまって校庭に非難する時に、僕は目を疑いました。壁がはがれたり、地面が割れたり、いままでに見たことの無いことはかりでした。

そして、クラスからみんな無事に避難できました。でも、お母さんがなかなか来てくれず、なかなか帰れなくて、泣いている人もいました。僕も、少し心細かったです。でも、ちゃんとお母さんがむかえに来てくれたので、ホッとしました。今回のような地震は怖いので、もう二度と来て欲しくないです。でも、余震がまだ心配です。

(新小四・YK君)

今まで体験したことのないほどのゆれの激しさを、「物の様子」「音」などで上手に表現しています。非難するときに目にした見たこともない光景。K君の驚きと不安な気持ちから、ただならぬ様子が手に取るようにわかります。本当に、恐かったですね。

『大じしん』

「じしんじゃないの!？」
この一言でじごくが始まった…。とつじよ、教室に大きなゆれが、私はひっしに机の下にもぐりこみ、あしをしつかりにぎった。



今思えば、あんな大きなじしんは十一年間で初めてでした。グラグラゆれる中、お願い止まって!とひっしでうったえました。

一度ゆれがおさまると、アナウンスがなり、私たち五年二組も校庭にひなんしました。こわくて、こわくてふるえました。もっとも、みんなにはそんなすがたは見せられませんが…。しばらく待っても、おむかえはきてくれません。しかたなく、学校で待機することにしました。

すると、しばらくして、お姉ちゃんがむかえにきてくれました。お父さんやお母さんは十時半ごろに帰ったので、むかえにきてくれてよかったです。家でもきょうふのあまり、体がふるえました。起きてもないじしんが起きたと思うこともありました。

夜ごはんは、お姉ちゃんがおかずを作り、私はお米たきと分担しました。親がいない中、何十回も弱いじしんが続くときほどこわく、不安なことはありません。父や母がやっと帰ってきました。みんなけがもなく、四人で過ごせた夜は幸せでした。(新小六・IMさん)



「両親のお留守中、長時間、お姉ちゃん二人、よく協力してがんばりましたね。Mちゃんの日記の最終段落の言葉は胸にしみます。家族が元気で一緒にいられる、そんなささやかなことがこんなに幸せだということにあらためて気づかされた一日でしたね。

『こわかった大地震!』

今日、日本最大のしん度弱の大地しんが起りました。私は、その時、学校にいました。

私が、帰ろうとすると、この大地震が起ったので、すぐに机の下へもぐりました。地しんは、すこく、すこく長く、ゆれがはげしかったので、りなちゃんと、ゆいちゃん、手をぎゅつとにぎっていました。

しばらくして、地しんがおさまりました。私は、自分のことより、家族の方が心配になりました。家では、おばあちゃんだけだったので、頭を打ったりしていないかな、と思いました。



そして、家にダッシュで帰りました。家に入ると、おばあちゃんが元気な声で「おかえり。」
と言ってくれました。私は、その声を聞いて、すこくすこくホツとして、うれしくなりました。(新小五・ARさん)

「友達とぎゅつと手をにぎる」という動作が恐怖心や不安感を上手に表現しています。揺れがおさまると、真先に家に一人だけいたおばあちゃんを心配する優しいRちゃん離れている家族のこと、とても心配になりましたよ。おばあちゃんのセリフが読み手にも安堵感を与える、素敵な日記でした。

●今月は紙面の都合により伊藤先生のおすめ本コーナーはお休みさせていただきます。ご了承ください。